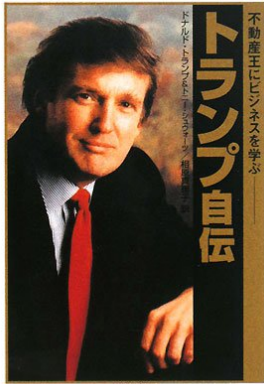




「トランプ自伝」を読みました！



新春第一弾としてご紹介する本は、「トランプ自伝 ～不動産王にビジネスを学ぶ～（筑摩書房、¥907、ドナルド・J・トランプ著）」です。トランプさんの生い立ち、ビジネスに対する考え方や方法論が書かれています。表紙の写真を見てもわかるのですが、30年前に自伝を書いていることがスゴイですね(笑)。

「トランプの手札」という章では、ビジネスに対する考え方を披露しています。「大きく考える、最悪を予想して最高を手に入れる、選択の余地を多くする、市場を知る、レバレッジを使う、立地の価値を高める、自分を宣伝する、断固戦う、言葉だけでなく実行する、コストを抑える、楽しむ」という項目です。特に印象に残ったのは「自分を宣伝する」という項目ですね。少しご紹介します。

「自分を宣伝する」という項目ですね。少しご紹介します。

ビジネスという見地からすると、マスコミに書かれるということにはマイナス面よりプラス面のほうがずっと多い。理由は簡単だ。ニューヨーク・タイムズ紙の一面を借りきってプロジェクトの宣伝をすれば、四万ドルはかかる。そのうえ、世間は宣伝というものを割り引いて考える傾向がある。だがニューヨーク・タイムズが私の取引について多少とも好意的な記事を一段でも書いてくれれば、一銭も払わずに四万ドル分よりはるかに大きな宣伝効果をあげることができる。(P75)

優秀な起業家や経営者はマスコミの使い方が上手いのですが、トランプさんもその例に漏れず上手くマスコミを活用していますね。それとほんの少しだけですが日本に関する記述もありました。

日本人が自国の経済をあれだけ成長させたことは尊敬に値するが、個人的には、彼らは非常に商売のやりにくい相手だ。(中略)ただ残念なのは、日本が何十年もの間、主として利己的な貿易政策でアメリカを圧迫することによって、富を蓄えてきた点だ。アメリカの政治指導者は日本のこのやり方を十分に理解することも、それにうまく対処することもできずにいる。(P215)

日本に対するこのような考え方は今も残っていると思います。現時点で中国に対しても貿易不均衡であると主張し、中国製品に関税を掛けると脅しています。アンフェアに対しては、これからもハッキリ主張してくるでしょう。ですからアメリカがアンフェアな対応を取れば、日本も堂々とモノを言うことが必要になります。最後に訳者あとがき(1988年刊行時)をご紹介します。30年後を予言する奥さんのコメントが驚きです！

元モデルでチェコのスキー選手だった美しい妻イヴァナは言う。「あと十年たってもドナルドはまだ五十一歳です。そう際限なくカジノを所有したりビルを建てたりするわけにいきませんから、いずれドナルドは他の分野に目を向けるでしょう。それは政治かもしれないし、何か別のものかもしれない。大統領選挙へ出馬することも絶対にはないとは言いきれません」